

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3998080号

(P3998080)

(45) 発行日 平成19年10月24日(2007.10.24)

(24) 登録日 平成19年8月17日(2007.8.17)

(51) Int. Cl.	F I	
B 6 5 D 33/16 (2006.01)	B 6 5 D 33/16	
A 6 1 F 5/44 (2006.01)	A 6 1 F 5/44	Z
A 6 1 F 5/453 (2006.01)	A 6 1 F 5/453	
A 6 1 F 5/455 (2006.01)	A 6 1 F 5/455	
B 6 5 D 30/24 (2006.01)	B 6 5 D 30/24	Z
請求項の数 11 (全 11 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願平9-343340	(73) 特許権者	596177951
(22) 出願日	平成9年12月12日(1997.12.12)		ブノワ カイエト
(65) 公開番号	特開平10-297651		フランス国、13008-マルセイユ ア
(43) 公開日	平成10年11月10日(1998.11.10)		ヴニウドゥ プラド 97
審査請求日	平成16年10月21日(2004.10.21)	(74) 代理人	100077665
(31) 優先権主張番号	96402711:4		弁理士 千葉 剛宏
(32) 優先日	平成8年12月12日(1996.12.12)	(74) 代理人	100077805
(33) 優先権主張国	欧州特許庁(EP)		弁理士 佐藤 辰彦
		(72) 発明者	ブノワ カイエト
			フランス国、13006-マルセイユ ア
			ヴニユ ドゥプラド 97
		審査官	渡邊 真
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 開口用スリーブを備える柔軟ポーチ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

柔軟な外袋部を備えるポーチであって、該外袋部の拡大部に続くカラーを備え、前記拡大部は、開口部を備える自由端部を有し、前記ポーチは、前記開口部が閉じている場合に平坦形状となることが可能であり、前記カラーは、前記開口部が開いている場合に実質的に管形状となることが可能であり、前記ポーチは、前記カラーの自由端部の少なくとも近傍に位置する補強要素を備え、

前記補強要素は、前記ポーチの内部に配置される比較的堅牢で可撓性に富むスリーブを備え、前記スリーブは、前記開口部近傍に位置する第1端部から前記拡大部を指向して位置する第2端部まで前記カラー内に延在すると共に、前記ポーチの平坦形状時に、前記ス

10

前記スリーブは、前記拡大部に結合された前記カラーの底部近傍に、前記スリーブの第1端部を指向して位置する第1部位および前記スリーブの第2端部を指向して位置する第2部位を両側に形成する切欠を備え、前記切欠は、前記第1部位の長手方向の対称軸から実質的に横方向に延在し、前記第2部位は、実質的に横方向に延在して互いに対面し且つ自由側端部を有する少なくとも2つのタブを備え、

前記スリーブは、一方が他方に対して対面する2つの壁要素を有し、前記カラーを実質的に管形状とし且つ前記開口部を開くために、前記第1部位が実質的に管形状となり、同時に、前記第2部位における2つのタブの側端部が互いに離間している、いわゆる「開」形状となるために弾性的に変形可能であることを特徴とするポーチ。

20

【請求項 2】

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記切欠は、前記スリーブが平坦形状の場合に少なくとも長手方向の端部から前記対称軸まで延在する 2 つのタブを形成することを特徴とするポーチ。

【請求項 3】

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、開形状を維持するための部材を備え、開形状の前記スリーブを保持するように付勢されることを特徴とするポーチ。

【請求項 4】

請求項 3 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、前記スリーブの前記 2 つの壁要素を結合する折り目の領域を備え、前記スリーブは、前記折り目の領域の両側に延在する切欠から形成される舌片を有し、前記舌片はそれ自身折曲可能であることを特徴とするポーチ。

10

【請求項 5】

請求項 4 記載のポーチにおいて、前記舌片は、前記タブの自由端部の反対側のスリーブの領域に延在することを特徴とするポーチ。

【請求項 6】

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、前記スリーブの 2 つの壁要素が両側に延在する折り目の領域に沿って折曲するプレートによって形成されることを特徴とするポーチ。

【請求項 7】

20

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、それぞれ前記ポーチの対向する 2 つの内側面に固定された同様な 2 つのプレートを備え、それぞれの前記プレートは、前記スリーブの前記第 1 および第 2 部位にそれぞれ対応する第 1 および第 2 部位が両側に延在する実質的に横方向のノッチを備え、それぞれの前記プレートは、前記ポーチが平坦形状である場合に前記カラーに現れる第 1 および第 2 長手方向端部の近傍に位置する 2 つの長手方向端部を備えることを特徴とするポーチ。

【請求項 8】

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記開口部に面する前記タブの端部は、前記ポーチの外袋部の前記拡大部に実質的に平行に延在することを特徴とするポーチ。

【請求項 9】

30

請求項 1 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、前記開口部を越えて外側に延在する延長部を備え、前記延長部は、平坦形状から開形状への移行を容易にする手段を備えることを特徴とするポーチ。

【請求項 10】

請求項 9 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、開形状を維持する部材を備え、前記スリーブを開形状に維持するように付勢され、前記部材は、前記延長部に位置することを特徴とするポーチ。

【請求項 11】

請求項 9 記載のポーチにおいて、前記スリーブは、前記スリーブの 2 つの壁要素を結合する折り目の領域を備え、前記スリーブは、前記折り目の領域の両側に延在する切欠によって形成される舌片を有し、前記舌片はそれ自身折曲可能で且つ前記延長部に位置することを特徴とするポーチ。

40

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、柔軟な外袋部の態様をなすバッグあるいはポーチに関し、一層詳細には、拡大部に続くカラーを備え、前記カラーが、開口部を形成する自由端部を有し、前記ポーチは、前記開口部が閉じた際に平坦な形状をとることが可能であり、一方、前記開口部が開いた際には前記カラーが実質的に管形状をなす開口部となることが可能であり、前記ポーチが、さらに前記カラーの自由端部の少なくとも近傍に配置される補強要素を備えたバッグ

50

あるいはポーチに関する。

【0002】

【従来の技術】

この種のバッグあるいはポーチは、一般的に液体状の廃棄物、特に尿や嘔吐物等からなる人間の排泄物を収納するために用いられる。そのようなポーチは、通常、平坦な形状であり、前記廃棄物を収納するために開かれる。その場合、前記ポーチは、実質的に前記カラーが管形状をなすようにこのカラーの自由端部近傍に保持される。一旦廃棄物が導入されれば、前記カラーの自由端部を解放し、自然に再び平坦な形状に戻り、開口部を閉じることになる。

【0003】

前記のようなポーチは、現在、可能であれば透明で、所望の柔軟さを予め備えている薄い紙あるいはプラスチックのシート素材を用いて作成される。開口すべく、補強要素が使用者によって変形され、この要素の周囲に配設されているカラーの部分を所望の管形状をなすように強制的に対応させる。

【0004】

開口部の横方向の寸法は、前記ポーチを利用する用途に合わせて選択される。一般的に、前記ポーチが尿あるいは嘔吐物を収納することを目的としている場合、前記開口部は、片方の手で操作可能である必要があり、その結果としてその横方向の寸法は、開く前のポーチの横方向の寸法より明らかに小さくなる。例えば、蓄尿器に用いられるポーチの場合、使用者が大人か子どもによって、その横方向の最大幅および開口部の最大幅は、それぞれ 15 cm ~ 20 cm、4 cm ~ 10 cm の範囲で変化する。

【0005】

補強要素が存在する場合、この要素の長手方向の2つの端部を合わせるようにすることでカラーの上端部にある開口部を開くことが可能となる。この2つの端部は、平坦な形状ではその最大幅を決定する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ポーチの外袋部を形成する素材の柔軟性により、カラーだけが適当に開き、残りの外袋部が平面のまま、すなわち、前記外袋部を構成するシート体があるままでは互いに密着した状態になり易い。従って、ポーチを使用する場合、ポーチに注入される物体が外側に逆流してしまう危険性がある。

【0007】

前記の欠点を克服するために、本発明は、前記カラーの管形状への移行時に前記カラーの領域だけでなく少なくともカラー近傍の拡大部の領域まで外袋部の壁部が確実に離間するようなポーチまたはバッグを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、本発明のポーチまたはバッグは、補強要素が前記ポーチの内部に配置される比較的堅牢で可撓性に富むスリーブを備え、前記スリーブは、前記開口部近傍に位置する第1端部から前記拡大部を指向して位置する第2端部まで前記カラー内に延在すると共に、前記ポーチの平坦形状時に、前記スリーブはそれ自身平坦形状をなすように構成されるポーチにおいて、前記スリーブは、前記拡大部に結合された前記カラーの底部近傍に、前記スリーブの第1端部を指向して位置する第1部位および前記スリーブの第2端部を指向して位置する第2部位を両側に形成する切欠を備えると共に、前記切欠は、前記第1部位の長手方向の対称軸から実質的に横方向に延在し、前記第2部位は、実質的に横方向に延在して互いに対面し且つ自由側端部を有する少なくとも2つのタブを備え、前記スリーブは、一方が他方に対して対面する2つの壁要素を有し、前記カラーを実質的に管形状とし且つ前記開口部を開くために、前記第1部位が実質的に管形状となり、同時に、前記第2部位における2つのタブの側端部が互いに離間している、いわゆる「開」形状となるために弾性的に変形可能に構成されていることを特徴とする。

10

20

30

40

50

【0009】

この構成により、スリーブの変形は、前記スリーブの第1部位によりカラーが開口部の直径になるだけでなく、スリーブの第2部位が設けられるタブの離間により少なくとも外袋部の拡大部でポーチの壁部を離間させることを可能にする。

【0010】

前記スリーブの「比較的堅牢で可撓性に富む」という性質は、ポーチの外壁よりは大きい堅さを備える素材によって形成されることを意味する。例えば、スリーブでは、外壁を構成するプラスチックの厚さより大なる厚さの軽い厚紙またはプラスチックで形成することができる。

【0011】

特に好適な実施の形態では、スリーブは、開形状を維持するための部材を備え、その開形状の前記スリーブを維持するように付勢することが可能である。

【0012】

この維持部材は、例えば、スリーブの折り目の領域に配置される舌片で構成され、ポーチが女性用の蓄尿器として用いられるように意図されている場合、特に有利である。開形状にあるスリーブへの手の圧力が誤操作によって解放されたとしても、ポーチが不意に閉鎖されること防ぐからである。

【0013】

【発明の実施の形態】

図面について参照すると、図1は、安全ポーチ10を示し、例えば、蓄尿器に使用される。このポーチは、柔軟な外袋部12を備える。前記外袋部12は、例えば、2つの薄いプラスチックシート製であり、適当に切断され、実質的に全体の輪郭に沿って溶着ライン14で互いに溶着される。

【0014】

外袋部12は、ポーチの底部に指向するカラー16と、それに続く拡大部18と、さらに続く実質的に均一な幅を有するポーチの利用部20とからなる。

【0015】

より詳細には、図示される実施の形態のように、外袋部12の端部12aは実質的にカラー16の自由端部から直線をなし、反対側の端部12'aは、当初、カラー16の領域に位置し、この領域において端部12aに実質的に平行か、あるいは大部分がこの端部12aから若干離間する第1部位12bを有する。端部12'aは、次いで前記端部12aから離間する第2部位12cを有する。前記第2部位12cが外袋部の拡大部18を画成する。最後に、ポーチの利用部20が端部12aと前記利用部20に面する端部12'aの部位12dとの間で画成される。前記部位12dは、実質的に端部12aに平行であるか、図示される実施の形態のように、端部12aに徐々に向かう傾向を有する。この構造に関連して他の構成も可能であり、ポーチの利用目的に応じた内部容量が得られるものであればよい。最後に、端部12aおよび端部12'aの部位12dはポーチの底部12eにより結合される。前記底部12eは、カラー16の自由端部16aの反対側に位置する。

【0016】

上記において、溶着ライン14は略連続するものとして示されている。実際に、図1に示されるとおり、端部14aと14bの間で分断される他は連続している。これらの端部14a、14bはカラー16のそれぞれの側に位置している。このように、カラーの端部16aは、実質的にその全体の幅に対して延在する開口部17を形成する。後の説明において、ポーチの相異なる要素の長さとは、カラーの自由端部16aよりポーチの底部12eまで延在する軸Dによって与えられる方向を指し、一方、異なる要素の幅とは、この長さに対して横切る方向であると定義する。

【0017】

ポーチは、カラー16の領域にあって、前記ポーチの内部に配置される比較的堅牢で且つ可撓性に富むスリーブから構成される補強部材22を備える。より詳細には、前記スリーブは、カラー内部において開口部17の近傍に配置される第1端部22aから、拡大部1

10

20

30

40

50

8の領域にあってポーチの内部に位置する第2端部22bまで延在している。カラー16の底部16b近傍（すなわち、カラーおよび拡大部の間の結合部の領域近傍）において、前記スリーブは、第1部位23aと第2部位23bが両側で形成される切欠24を備える。部位23aは、切欠24とスリーブの端部22aの間に延在し、部位23bは、前記切欠と端部22bとの間に延在している。

【0018】

前記第2部位23bは、実質的に軸線Dを横切る2つのタブ26を備える。平坦状態のポーチでは、2つのタブ26は、互いに対面して配置され、このため、図1中には片方のみが示されている。一方、図2では、2つのタブ26が示されている。タブの側端部26aは自由端であり、すなわち、これらの端部は、互いに結合されたり固定されたりしていない。このように、切欠24は、実質的に横方向に延在し、2つのタブの端部26aを分割する直線をなす2つのノッチ24a、24bを備える。

10

【0019】

図1から諒解されるとおり、スリーブは、ポーチの内部にあって横方向の2つの溶着ライン15aおよび15bによってポーチ内部のカラーの領域に固定される。

【0020】

スリーブの第1部位23aは、実質的にカラー16の全体幅にわたり延在し、平坦形状時においてスリーブの第1部位の長手方向の端部22cおよび22dを離間させるその距離は、溶接ライン14の端部14aおよび14b間の距離で与えられるカラーの幅に略等しい。前記第2部位は、全体として第1部位の延長でポーチの底部12eへ延在する。しかしながら、図1において一点鎖線で示されるとおり、タブの領域にある第2部位の最大の横幅寸法dは、前述した第1部位の現時点の幅よりも大きい。本構成では、カラーの下部に位置する領域においてポーチの2つの壁を離間させる目的をもつタブの効果をより増加することを意図するものである。

20

【0021】

実際に、図2は、カラー16が開形状であるポーチの上部を示している。この形状を実現するために、スリーブは弾性的に変形されて、第1部位23aは実質的に管形状をなす。一方、切欠24が存在し、且つタブの側端部が自由端であるため、タブは実質的に直線を保つ。それらは端部26aから反対側の内部端26bでスリーブの対応箇所に結合する。スリーブが図2のように変形された場合、内部端26bは、スリーブの第1部位の直径の機能として所望の間隔だけ離間する。タブ26は、この場合、実質的な全体の長さにおいて、それぞれの内部端間の間隔に略等しい間隔eを保つ。

30

【0022】

以上のように、スリーブが変形された時、スリーブの第1部位23aの回りに配置されたポーチのカラー16は、スリーブに対向する壁の最大間隔から決定される直径を有する管形状に形成される。タブ26は、ポーチの拡大部18内に延在し、図1の面に対し軸Dを通して垂直な平面において拡大部を離間させるように移動し、実質的にスリーブの第1部位23aの直径を備え、タブ26の端部の領域（軸Dから離れた領域）で間隔eを備える。このように、ポーチの壁は拡大部の領域にて互いに離間する。

【0023】

図示される実施の形態の通り、拡大部18は、端部12'aの部位12cを端部12aから離間するように移動させることにより得られる。これらの状態下において、タブが前記部位12cを指向していることが望ましい。

40

【0024】

拡大部が他の構造をとる場合、例えば、軸Dに対し線対称な切頭形（truncated shape）をとる場合、図1のスリーブと同様であって、タブが切頭形の部位の2つの端部のうちの一方あるいは他方を指向しているようなスリーブを生成するようにしてもよい。または、軸Dを横切るように始まる2つの反対の方向を指向し、拡大部においてポーチの壁が離間するようにそれぞれ軸Dの両側に配置されるタブ26と同様な4つのタブを備えるスリーブを用いるように選択されてもよい。

50

【0025】

スリーブの第1部位23aは、全体として、軸Dに対し対称である。特に、開形状において、前記軸は、スリーブの第1部位23aが形成する管の幾何学的な軸 (geometrical axis) に対応する。これらの場合、この管の直径は、軸Dを通して平坦形状のポーチに直交する面に沿って測定されるスリーブの2つの対向する壁の間隔から与えられる。タブの端部の間隔eは、前記直径に略等しく構成されることが望ましい。その目的のため、図1に示すとおり、2つのタブを形成する切欠は、スリーブが平坦形状時に実質的に長手方向の端部22cから軸Dまで延在する。図示される実施の形態において、前記端部22cは、ポーチの端部の部位12cに近接するスリーブの長手方向の端部である。

【0026】

好ましくは、前記切欠が、端部22cから軸Dを越えて反対側の端部22dに向かう方向に延在することが望ましい。この場合、タブの端部26bは、開形状時に分かれるスリーブの領域に結合され、すなわちスリーブが開かれる時に互いに離間する。比較的堅牢なタブは、内側端部26bの領域にあるスリーブの壁によって付与される分岐方向に沿って、スリーブが開かれるときに離間する。ここで、ポーチの壁がタブ26の離間部位に対して幾分抵抗したとしても、タブの端部26a間の間隔eは十分に確保される。しかしながら、タブに所望の堅牢さを持たせるためには、切欠24が軸Dを過度に越えて延在することなく、数mm程度のみを超えて延在することが望ましい。

【0027】

図1～3に示される実施の形態によれば、スリーブは、前記スリーブが平坦形状時に現れる第1および第2壁要素をそれぞれ構成する同様な2つのプレート25aおよび25bを備える。これらのプレートは、通常、平坦であり、且つ軽い厚紙もしくは比較的堅牢で可撓性に富むプラスチック製である。これらのプレートは、ポーチが平坦形状をとる場合に互いに対向するポーチの内面にそれぞれ固定 (例えば、接着あるいは溶接により固定) される。これらのプレートが固定されるので、これらのプレートの長手方向の端部は、ポーチが平坦形状時、カラー16が現れる2つの長手方向の端部にそれぞれ比較的近接するように固定される。このように、プレートの長手方向の2つの端部は、それぞれ、これまで説明したスリーブの端部22cおよび22dを形成し、他の参照符号によって示してはいない。

【0028】

切欠24を形成するために、それぞれのプレートは、それぞれ実質的に横方向のノッチ24aおよび24bを有する。それぞれのプレートに対して、第1および第2部位が区別され、それぞれ前記ノッチの両側に延在し、且つそれぞれスリーブの第1および第2部位に対応する。当初互いに離間し且つプレートの第1部位の幅がカラーの幅と略等しくなるという事実によって単に位置的に維持されるプレートの長手方向の端部とタブの側端部が通常において一致している限り、前記タブの側端部を自由端にする他の切欠は必要とされない。

【0029】

2つのタブは、それぞれの切欠とポーチの内部に指向する端部の間に位置するプレートのこれらの部位によって構成される。それぞれのプレートは、それぞれポーチが平坦形状時にカラーに現れる2つの長手方向の端部近傍に位置する2つの長手方向の端部を備える。

【0030】

図面から了解される通り、タブの側端部26aは離間したときにポーチの壁を損傷することを避ける目的で丸く加工されている。

【0031】

タブの上方端部26c、すなわちポーチの開口部側に指向する端部は、完全に横方向に向くものではなく、若干傾斜している。このため、前記ポーチの外袋部の拡大部、より正確には端部12cに対して実質的に平行に延在することが銘記されるべきである。その結果、タブはポーチの拡大部に対応する形状となり、ポーチ内に存在し且つ容易にポーチを開くことができる。

10

20

30

40

50

【0032】

切欠24は、カラー16の底部近傍に位置し、且つ好ましくはポーチの底部12eに指向して前記底部の若干下方に位置することが望ましい。

【0033】

図面から了解されるとおり、スリーブ22は、開口部17を越えて外側に延在する延長部27を備える。前記延長部は、スリーブの平坦形状から管形状への移行を容易にする手段を備える。これらは、長手方向の端部22cおよび22dを合わせる間に前記スリーブの壁が若干離間するように移動するために、前記スリーブの対向する壁を把持する把持手段である。図1および図2の実施の形態では、これらの把持手段は、単にそれぞれポーチの対向する2つの壁部に平行なスリーブの2つの壁部を備える2つの舌片27aおよび27bによって構成されている。

10

【0034】

図3に、他の実施の形態を示す。この図3において簡略化した図として、外袋部の輪郭が一点鎖線で示されている。スリーブ122の延長部127は、2つの舌片127aおよび127bをそれぞれ備えているが、図2の実施の形態と異なり、前記舌片はそれぞれ同じ形状ではない。実際、前記2つの端部は、2つのオフセットした把持面を備える。これらの面を生成するためには、スリーブのそれぞれの2つの壁要素あるいは2つの対向する壁部の延長部127を軸Dに対し非対称に切断するだけで十分である。そうすれば、第1のプレートの延長部の切欠は、第2のプレートの実部位（実存する部位）の反対側に位置する。

20

【0035】

図4～図6には、図1および図2と共通する要素を示すために、数字を200付加した参照符号を付している。スリーブ222は、開形状を保持する部材を備えている。

【0036】

一層詳細には、前記スリーブは、折り目240の領域を有し、図5によりよく視認される通り、その両側に2つの壁要素225aおよび225bがそれぞれ延在している。切欠242は、スリーブに形成され且つ折り目領域の両側に、好ましくは折り目に対し対称的に延在する。前記切欠242は、図6に示す通り、それ自身折曲可能な舌片244を残す。この場合、前記舌片244の折り線246は、実質的に折り目240の領域を横断して延在し且つある範囲でこの折り目の領域が連続することを妨げ、2つの壁要素225aおよび225bが互いに折り重なることを阻止する。舌片244は、一度、図6に示すように折られると、それによりスリーブを開形状に保持する。

30

【0037】

舌片244は、スリーブを構成する素材の相対的な堅牢さと折り目240の領域の中断部位240aにより形成される堅い箇所によって、その折られた位置で保持される。

【0038】

切欠242は、例えば、図示されるように、実質的にはV字形、または逆V字形、あるいは同様な他の形状でもよい。

【0039】

図6において、舌片244は開口部217を越えて外側に延在するスリーブの延長部227に位置しており、これは、前記舌片をスリーブの外側に折曲可能とする。しかしながら、スリーブの内側に折り込むことも可能であり、また、ポーチ内に延在するスリーブの内側位置に配置されてもよい。

40

【0040】

図示される実施の形態において、舌片244は、タブ226の自由端部に対し反対側のスリーブの領域に配置される。

【0041】

図4～図6の実施の形態において、スリーブは、1つの部材から作られ、且つ折り目240の領域に沿って折られるプレートで形成される。図5から一層容易に諒解される通り、スリーブの第2端部222bから高さhだけ完全な折り目を形成するように、折り目24

50

0の領域を潰すように選択することもできる。それによって、平坦形状から開形状となるスリーブの移行を容易にする。

【0042】

ポーチが蓄尿器として使用されることが企図される場合、スリーブの上部27、127あるいは227は、使用者（男性あるいは女性）の性器に合うように形成されてもよく、取付のための付加的な部材を用いてもよい。

【0043】

男性によって使用される場合、第1端部22aまたは222aの形状は、さほど重要ではなく、開形状時のスリーブの管形状部分が十分な直径を備えていればよい。

【0044】

女性によって使用される場合、図4～図6に示される通り、もしスリーブの第1端部222aが凹形の端部を備えるならば、スリーブの平坦形状時の面に対し対称であることが望ましい。このように、ポーチの使用のため、スリーブの端部は、尿道の管をクリアするように離間されるが、尿が通過する際に漏れるおそれがないように、より望ましくは、使用者の性器の形状に合うように形成してもよい。

【0045】

図1に示される通り、ポーチは、安全フラップ手段を備えてもよい。例えば、この安全フラップ手段は、ポーチのそれぞれの壁に対して配置される複数の内部フォイルで構成される。図示される実施の形態において、このフラップ手段は、ポーチのそれぞれの壁に対し、開口部からポーチの中央領域まで延在する第1の一对のフォイル30を備える。前記フラップ手段は、同様に開口部から前記第1の一对のフォイル30の長さより若干短い長さだけ前記第1の一对のフォイル30の内部に延在する第2の一对のフォイル32を備える。第1の一对のフォイル30と第2の一对のフォイル32は、一定間隔離間した溶着点31によって互いに溶着される。最後に、フラップ手段は、前記第2の一对のフォイル32の長さより若干短い長さだけ前記第2の一对のフォイル32の内部に延在する第3の一对のフォイル34を備え、前記第1と第2の一对のフォイル30および32に対し一定間隔離間し且つ溶着点31に対しオフセットされた位置に存在する溶着点33によって溶着される。

【0046】

この場合、カラーの領域には、最も内側の一对のフォイル34の2つの対向する内面によってポーチの「内側壁」が形成される。従って、スリーブは、前記内面と接触する。このため、それぞれの対のフォイル30、32、34の第1（または第2）フォイルは、スリーブ（プレート25aまたは25b）の第1（または第2）壁と外側の外袋部12の第1（または第2）壁の間にサンドウィッチされる。溶着ライン15aおよび15bは、ポーチのそれぞれの側で、スリーブの壁、それぞれの対のフォイル30、32、34および外袋部12の壁を互いに溶着する。

【0047】

言うまでもなく、本発明によるスリーブを有するポーチは、異なる安全フラップ手段を備えてもよいし、もしくは実施の形態の目的によってフラップ手段を備えなくともよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のポーチが平坦形状である場合を示す立面図である。

【図2】開形状であるポーチの上端部を示す図1の方向I Iに沿った斜視図である。

【図3】スリーブの他の実施の形態であって、平坦形状のポーチの上端部を示す部分立面図である。

【図4】図3に類似した他の実施の形態を示す図である。

【図5】図4に示される他の実施の形態において、ポーチが平坦形状である場合を示す斜視図である。

【図6】図4に示される他の実施の形態において、ポーチが開形状である場合を示す斜視図である。

【符号の説明】

- | | |
|----------|---------------|
| 10…安全ポーチ | 12…外袋部 |
| 14…溶着ライン | 16…カラー |
| 17…開口部 | 18…拡大部 |
| 20…利用部位 | 22…補強部材（スリーブ） |
| 24…切欠 | 26…タブ |
| 27…延長部 | 240…折り目 |
| 242…切欠 | 244…舌片 |
| 246…折り線 | |

【図1】

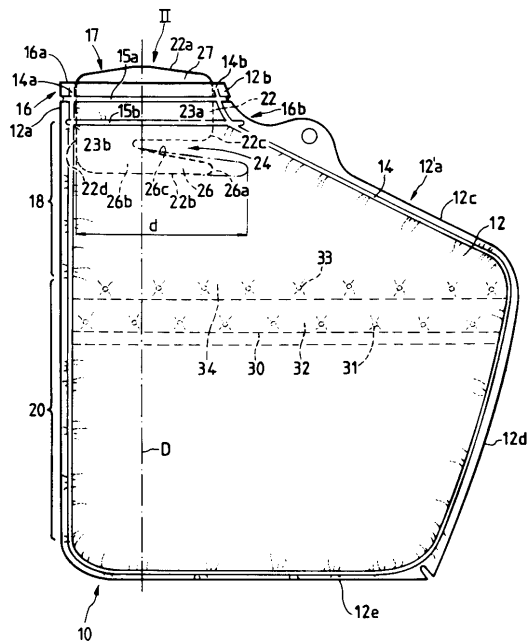


FIG.1

【図2】

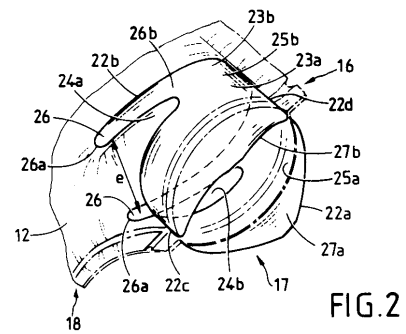


FIG.2

【図3】

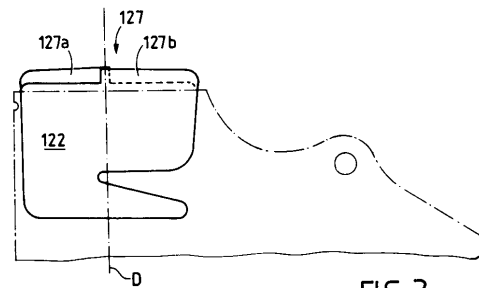


FIG.3

フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
B 6 5 F 1/00 (2006.01) B 6 5 F 1/00 J

(56)参考文献 実開平04-035538 (JP, U)
実開平03-129247 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 33/00
B65D 30/00
A61F 5/00